

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立北嵯峨高等学校 】

1 実践テーマ	【 I III V 】
2 実施対象者	全校生徒 819名 スポーツ科学コース生徒 2年42名・3年41名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育科)
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで取り組んできたスポーツを中心に、そのスポーツとの関わりの中で自分がどのように成長したかを振り返り、今後のスポーツとの関わり方を明確にし、豊かなスポーツライフを継続するきっかけとする。 ・オリンピックの講演を通じて、アスリートの生き方やスポーツに関する様々なキャリアを学ぶ。
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・東京オリンピック ハンドボール日本代表コーチ 舍利弗 学氏による講演（スポーツ科学コース対象） 12月10日（金）5・6限 ・自分を振り返る「自分史」の作成とプレゼンテーション （10月中旬～12月/12月発表） 学校設定科目「フィジカルトレーニング」（PT）の授業を活用 （3年7組スポーツ科学コース対象） これまで行ってきたスポーツの歴史、スポーツとの出会い、そのスポーツと関わってどのように成長したかを調べ発表する。 ・自分が取り組んできたスポーツとオリンピックについて調べ発表する。 （2年7組スポーツ科学コース対象） ・オリンピック、パラリンピックについて広報新聞製作とプレゼンテーション （11月～12月）廊下に掲示



自分史の発表



舍利弗氏の講演

6 主な成果

- これまで自分が取り組んできたスポーツを通じて、そのスポーツの歴史や競技特性を知り、自分がどのように成長したのかをふり返り、今後豊かなスポーツライフを継続するためのビジョンを形成する機会となった。また、後輩を前にして発表する機会を設け、表現能力の向上を図った。
- 東京オリンピック ハンドボール日本代表コーチの舍利弗氏の

	講演を通じ、自分自身と専門種目の向き合い方などを学び、目標を達成することの大切さや素晴らしさを再確認することができた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> • 「自分史」作成は、本校の図書室の書籍やコンピューター検索で調べ、冊子にまとめ発表時に参加者全員配付した。 • 本校で実施したオリパラ事業は、学校HPなどで紹介し、地域や家庭にも広報を行った。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> • PC操作の得手不得手があり、PC操作の指導に時間が取られた。 • 本校の事業は、対象生徒がスポーツ科学コースの生徒と限られており、オリンピック・パラリンピック教育を推進していくためには全校生徒に浸透できるような事業を考える必要がある。対象生徒を広げていきたい。 • 本事業を年度当初に日程調整や計画ができれば、さらに事業を充実させることができるのではないかと。 • 新型コロナウイルスの感染状況を見ながらの実施となったため、なかなか実施内容や実施日が決まらなかった。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> • 自分とスポーツの向き合い方を考えられるよう、事業内容を再考しながら、継続した事業を展開していく。